

## 比較舞踊教育

—大学教育（専門・一般）を考える—

松本千代栄・斎藤千代子（司会）

## 提案趣旨

舞踊教育の現在を担うためには、先ず実態を正視し、更に視野を拡げて、文化・教育的背景を踏まえ、比較の視点をいかし、差異性と今日の問題点を明らかにして、現状の改善と将来の展望の視座をもつべきと考えられる。

従来、舞踊教育は体育学の立場からは、競争と並ぶ表現系の内容として、指導要領（文部省）を中心とする舞踊系の教育変遷として検討・討議され今日に至った。〈人間と舞踊文化・舞踊教育〉のより広いヴィジョンに立って、舞踊の本質と大学教育を考える機会に恵まれることは少なく、舞踊教育・研究と大学教育〉という教育・研究の立場に立って、大学教育の在り方を討議する機会も稀少であったと思われる。

社会文化としての舞踊の隆盛、その多様な展開と国際化の動向の中で、新しい世紀の萌しを感受する今日、人間存在の「生」をもって実現する Performance、演ずる文化として、その論と実践をどのように充実するかは、舞踊学の課題であり、ひいては大学における舞踊教育の構築、その体系を確立すべきときと考えられる。

第17回舞踊学会を機に開催される表記シンポジウムは、これらの深く、かつ、シビアな課題への接近によって、ひとまず現状の問題点を抽出し、あわせて今後の継続討議及び、改善の方途を得る契機の一とすることができればと考え、主題を提出した。

(松本千代栄)

## 報告及び討議項目（案）

- I. 大学における舞踊教育の実態をみる
  - 海外及び日本の現状（比較のための事例報告）—
1. 専門教育①—体育学・舞踊学専攻関係
  - 1) 学科名, 規模, (講座, 学生数, 教官数…)
  - 2) 取得免許状, 進路
  - 3) カリキュラム内容 (講義, 実技) 履修単位 (男女)
  - 4) 専門課程と関連活動 (公演, クラブ活動, 公開講座)
  - 5) 特性と問題点等

2. 専門教育②—幼児教育学専攻関係
  - 1) 学科名, 規模 (4年制, 短大…)
  - 2) 専門科目 (音楽リズム, 体育…)
  - 3) 特性と問題点
3. 一般体育—保健・体育学関係
  - 1) 一般教育の中での講義・実技
  - 2) 特性と問題点

II. 人間発達と舞踊教育を考える  
—現状改善のために—

1. 専門教育として  
内容・指導力の向上, 授業研究…
2. 生涯教育として  
基本的内容, 公開講座…
3. 研究・教育上から  
論文・再教育・制度 (修士, 博士課程)

## III. 大学教育と舞踊文化をみる

—比較の視点をいかして将来構想をもつために—

1. 人間存在の本質をみたく舞踊教育として
2. 社会文化の継承・発展をになう舞踊教育として  
(司会)

## 報告

1. イギリスの実態から
  - 1) 三浦弓杖 (千葉大学)  
BRIGHTON POLYTECHNIC  
Faculty of Social and Cultural Studies  
Chelsea School of Human Movement  
(1979~82の資料)

&lt;コース名&gt;

- 体育・ダンスコース
- ヒューマン・ムーブメントコース
- 卒業生のための1年コース
- サプリメントリーコース

&lt;カリキュラム上の利点と問題点&gt;

- ①教育実習が重視され、1年生では観察と指導、

2年生では実習準備(模擬実習)を経て指導へ、3年生は、小学校か中学校を選択し、個人の適性にあった道をさがすようになっている。

- ②体操、ダンスにウエイトがおかれており、共にラバン・システムにたつて理論的理解と想像的学習が重視されているので、効果的である。
- ③理論的学習はヒューマン・ムーブメントとして、科学的、美的、社会学的見地から運動を学び、特に美的考察は、直接ダンスと結びついて理解を深めている。
- ④体操、ダンス以外の活動は20種目以上に、1、2、3、のグレイド、コーチングと指導法・審判法が開講され、陸上、水泳、イギリスでポピュラーなスポーツ、野外活動(海、断崖が目の前にある)、そしてナショナル・ダンスと伴奏法があり、ダンスの枠外で学習される。

## 2) 島内敏子(日本女子体育大学)

Laban Centre For Movement and Dance at University of London Goldsmiths College (1984~85)

### <主なコース名>

- ダンス・シアターコース
  - ①ダンス・シアター・B.A. オーナーズ・コース
  - ②ダンス・シアター・パフォーマンス・コース
- 上級学位取得コース
  - ①ダンス研究専攻の修士課程(M.A.)
  - ②修士課程(M.Phil)、博士課程(Ph.D)
- 特別コース(1年又は1学期間)
  - ①トレーニング・カレッジ修了者のためのコース
  - ②専門家のためのコース
    - 上級パフォーマンス・コース
    - 上級コレオグラフィ・コース
    - ラバン・スタディ・コース
    - ノーテーション
    - 教師や講師のための上級研究コース
    - 舞踊教育(一般)補強コース
    - 舞踊教育(特殊教育)補強コース
    - 地域社会におけるダンスとムーブメント

### <全般的な特色と問題点>

- ①ラバン・センターは、ロンドン総合大学の一つ、ゴールド スミス・カレッジの構内に設立されているが、ゴールド スミス・カレッジと関連をもちつつも、これとは独立した機関となっている。
- ②ラバン・センターでは舞踊が一つの独立した

学科として教育、研究の対象となっている。

- ③動きと舞踊に関する研究所として、大学教育から、舞踊家、教育者、社会体育指導者などの社会人の再教育まで、広い範囲にわたって各種の要請に応じるコースを開講している。
- ④特に理論面ではノーテーション、ムーブメント・スタディ、動きの観察法など、ラバンの業績の継承・発展させた科目を特色としている。
- ⑤従来、ラバン・センターには、学生のB.Ed.(ムーブメントとダンス専攻の教育学士)を取得できるコースとして
  - B.Ed (Ordinary) コース  
2年間ラバン・センターで学習し、そのうち、1年間ゴールド スミス・カレッジで学習する3年間の大学コース。
  - B.Ed (Honours) コース  
2年間はラバン・センター、その後2年間は、ゴールド スミス・カレッジで学習する4年間の大学コース。
  - 学位(Diploma) コース  
3年間のトレーニング・カレッジ修了者のためのB.Ed. 取得のためのコース。  
等があったが、現行のコース資料にはない。  
大学教育面では、センターは、舞踊の教育的アプローチよりも文化的アプローチの方に重点が置かれる体制となっている。

## 2. ドイツの実態から

### 1) 三宅 香(日本体育大学)

DEUTSCHE SPORHOCHSCHULE KÖLN の学習内容 (1982)

### <コース名>

- Schulsportlehrer für Schulstufen (学校体育教師)
- Diplomsportlehrer mit Doppelqualifikations-schulisch + ausserschulisch (体育学士:学校と学校以外の2つの資格が取れる)
  - ①Diplom A Schulstufen (s.o.) + Breitensport (学校体育とスポーツ全般)
  - ②Diplom B Sonderschule + Behindertensport (特殊学校と障害者のスポーツ)
- Nachwuchs für Sportwissenschaft (体育学術コース)
  - ①Magister (geplant) der Sportwissenschaft (体育学修士)
  - ②Promotion Dr. Sportwiss. (博士コース)
  - ③Habilitation venia legendi (大学教員資格)

### <特色>

- ①1970年代まで体育学士コースの1専門科目であった「障害者のためのスポーツ」が現在は、

従来までの体育学士コースを DIPLOM A、障害者のためのスポーツを DIPLOM B と大きくした。

②1970年代まで「ジムナスティック」と「リズム／ダンス」の2科目は専門科目ではなかったが、現在は重点科目として選択出来るようになった。

③1970年代までの「モダン芸術ダンス」という専門科目が「エレメンターダンス」と名称が変わった。

④「エレメンターダンス」を男子学生も受講するようになった。

#### <問題点>

①1970年代までは実技に重点が置かれた。特に「身体形成とリズム運動形成」「器械体操」「水泳」などは修学期間が長かったが、1970年代に入って、減ってきて、現在は、9科目選択で、期間も2学期（1年間）と実技の時間数が少なくなった。

②1970年代では600名だった学生が現在は2,000名以上で授業は夜8時迄もある。

### 3. アメリカの実態から

#### 1) 頭川昭子 (筑波大学)

THE GEORGE WASHINGTON UNIVERSITY  
SCHOOL OF EDUCATION

#### <コース名>

○ M . A . In Education-Human Kinetics and Leisure Studies Specialization in Dance

○ The Bachelor of Science in Human Kinetics and Leisure Studies in DANCE AS A PERFORMING ART

○ The Bachelor of Science in Human Kinetics and Leisure Studies in DANCE THERAPY

○ The Bachelor of Science in Human Kinetics and Leisure Studies in DANCE EDUCATION

#### 2) 大谷久子 (早稲田大学)

University of Massachusetts at Amherst  
"Department of Music and Dance"

#### <特性>

①U - Mass. は Five College Dance Department の1部である。本資料はU - Mass. のみをあげたが、学生は他の4大学からも dance の単位を履修できる。

②学年別の履修でなく、能力別の履修である。年2回のテストは5名の教師の前で、1人20分ずつの間に Ballet, Modern, Jazz の動き、自分の創作を演じ評価を受ける。

③芸術家の公演（1期に2回位）の折、芸術家による指導がうけられる。

④専攻学生総数約50名（男子10%位、黒人が多

く意欲的）。

⑤音楽との結びつきが密で伴奏者が共に指導をもちあげる。

#### <問題点>

① Performance 中心であり、1～2年で退学・転科学生もかなりある。脱落への手だてはあまりみうけられない。

②将来の進路が見定めにくい。少数がプロフェッショナルの中に進出する。(大学間のダンス・コンクールでの作品の評価はかなり高い)

(特性・問題点の文責：松本)

### 4. 韓国の実態から

#### 1) 下 在京 (お茶の水女子大学・大学院)

忠北大学師範大学体育教育学科におけるカリキュラム (1984年3月現在)

#### <特徴>

①学科設立目的

体育学に関する専門的な知識と技術をもつ有能な体育指導者の養成。

②就職問題

国立師範大学⇒中等学校2級正教師資格

(4年間の義務期間)

③ダンス科目 6単位設置

女子学生の場合、舞踊教師を兼任する傾向がある。また、男子学生も選択できる。

④卒業総合試験制の実施

⑤専用ダンス室がある。

#### <問題点>

①一般体育

国家政策により入学定員の30%増加⇒施設・場所不足

効率的学習運営に難点

(相対評価のため、各種目の基準はあるが)

ダンスは一般体育に含まれていない。

②理論3単位 実技1単位

実技がうまくできなくても平均成績は優秀

③有能な教師養成の目的として国立教員大学が創立される。⇒従って現在の国立師範大学生の就職問題が悪化することが予想される。

#### 2) 朴 美羅 (お茶の水女子大学・大学院)

暁星女子大学、師範大学、体育舞踊学科

—体育舞踊学科の教科課程 (1984年現在)

#### <専攻名>

○舞踊専攻

○体育専攻

#### <特性>

①入学時には、体育専攻と舞踊専攻を区別して人数を決定。

②専攻別で、実技の能力は普通より高め

③教科目の数が多く、自分の好む科目を選択できる幅が広い。

④各種の舞踊を行うので、各々の舞踊の性格を比較することができる。

⑤舞踊の分野は Ballet、現代舞踊、韓国舞踊の中で各々専攻の区別ができる。

#### <問題点>

①体育教師として現場に派遣されるので現場では専攻別で混同する事がある。

②学生の創作能力を養う時間がすくない。

### 5. 日本の実態から

#### 1) 川口千代 (筑波大学)

筑波大学における舞踊教育カリキュラム

#### <体育専門学群の専攻>

○第一専攻専門実技 (体操、体操競技、陸上競技、水泳、舞踊、野外活動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、弓道の中から1種目選択)

○第二専攻体育学 (A群「体育原理・体育方法学」、B群「体育史・武道論」、C群「体育社会学・体育経営学」、D群「体育心理学・運動測定学」、E群「運動力学・運動生理学・体力学」、F群「運動方法学・運動学原論・コーチング論」の中から1つを選択)

#### <特色>

①3学期制、1コマ75分間授業を採用。

②入学試験制度

推薦入学と一般入試制度の採用。

③体育専門学群の2専攻制

2年次に第一専攻 (14種目の運動より1種目選択)、3年次に第二専攻 (A～F群より1群選択) を選択し、2専攻にわたって専門分野をもつ。

#### <問題点>

①基礎実技舞踊実習 (体育専門学群女子学生全員) の必修単位数が不足である。

実習及び指導法実習の必修単位数の増加を促進する。

②男子の舞踊実習単位の問題

現行では、選択科目に数名受講している。

男子必修単位化を促進中。

③舞踊専攻生の舞踊経験差の問題

現行のカリキュラムでは、舞踊以外の得意種目を持つ学生 (テニス、バドミントン、ライフル等) も舞踊専攻生として申告するため、舞踊経験、能力、関心等に著しい差異がみられる。

④推薦入学制度における舞踊専攻受験者の問題

#### 2) 松本富子 (群馬大学)

日本 (国立大学) の実態から

#### <現状と問題点>

①一般教育における開講は、人的条件に左右される。

②小学校教科専門 (共通教科)、教職に関する専門科目 (教材研究) における開講が少ない。

③専門では、指導により必修単位数より多くの単位を履修している。

④理論、伴奏法、上演法をどのように位置づけるか。

⑤男性及び男性指導者に対する舞踊教育はどうあったらよいか。

⑥開講や単位選択の基準に種目別発想がみられる。

#### 3) 徳家雅子 (武庫川女子大学)

山田敦子 (天理大学)

大学体育専門課程における舞踊教育の実情

—関西地区の私立大学の場合—

#### <問題点>

①カリキュラム

●実技・論共に開講時間数が少ない。

●実技に重点がおかれ、論が軽視されている。

●男子学生を対象にしたものが限定されている。

②指導者

●体育系大学の女子教員の大部分がダンス担当である。

●少数の指導者で多面的・総合的に指導をしている。

●大部分の指導者は、体育専門課程として舞踊を学び、個人的に舞踊家に師事している。

③卒業生の就職状況

●大学では、半数が専門性を活かせる職業に就いている。

●短大では、大部分が一般企業に就職し専門性を活かす職業に就くことは少ない。

●大学と短大で、教職と社会体育の比率が逆転している。

●今後、社会体育への就職者が増加すると思われる。

●少数ながら舞踊活動に携わる者が認められる。

※通常のカリキュラムでは、十分な実力を養うには不足である。これを補うには、クラブ活動や体育祭・文化祭等の行事を有効に活用することが考えられる。さらに、卒業後の再教育・研究の場を持つことが望ましく、大学等がその場を提供していくことを考えなければならない。

#### 4) 松本千代栄 (お茶の水女子大学)

お茶の水女子大学舞踊教育学科  
－昭和59年度 カリキュラムの実態－

<講座名>

- 第1 講座 舞踊教育学
- 第2 講座 遊戯学
- 第3 講座 動作学

<特性>

- ①舞踊学関係の講義及び実験・演習、実技が多く出されている。
- ②舞踊創作の発展体系を考え、各学年に技術と創作学習内容を含めている。
- ③各種の舞踊系の講義及び実技に関して、非常勤講師の協力を得ている。
- ④上演法を単位に含め、その延長上に創作舞踊公演を行なっている。
- ⑤小規模大学の特性を生かし、幼児教育及び、小学校教員の免許状を取得できる。
- ⑥研究の継続として、修士課程（文学修士）、博士課程（人間文化研究科・学術博士）に進学できる。
- ⑦研究教育職及び一般企業（放送・新聞・銀行等）に就職している。
- ⑧一般体育実技のモダンダンス選択者が非常に多い。

<問題点>

- ①文教育学部内の学科として、入試における学科成績水準が高く、等質化されやすい。
- ②専門分野の拡がりに対して専任教官数が少ない。
- ③入学学生の資質及び好みについては舞踊系と体育系に分かれる傾向がある。
- ④女子大系として、男性の入学生が求められない。（派遣研究員は受け入れている）

5) 相場 了（十文字学園短期大学）

坪倉紀代子（同 上）

十文字学園短期大学

－幼児教育学科と初等教育学科－

<特性と問題点>

○幼児教育学科

- ①教育実習が充実している（1年1/2 2単位  
2年1/2 4単位）
- ②体育関連活動として5月- 体育デー、8月- 水泳実習（幼・初のみ）、3月- スキー実習がある。単位にはならないが、全学的に体育活動への理解・協力を得る機会になっている。
- ③2年間の身体表現活動のまとめとして舞踊劇発表会を行っている。
- ④舞踊作品観賞の機会として、日本女子体育連盟主催「全日本女子体育実技研究発表会」をとりあげて参加している。

- ⑤問題点としては、授業クラス編成に関して、1クラスの人数が多過ぎること（1クラス82名）等。

○初等教育学科

- ①週1回の「専門体育」では時間不足のため、一般体育を専門化して補っている。
- ②低・中・高の発達別の計画、指導案の立案と実施、問題点のおさえ、と具体化した実習を行っている。小グループでの研究。「女子体育」テキスト。
- ③採用試験の問題、時間数の不足、多人数の授業など。

表 舞踊系科目の一覧 - 提出されたカリキュラムから舞踊関係の科目名を抽出 -

国名	大学名	科目名
イギリス	チェルシー・スクール	ダンス, ダンス序論, 教育に於けるダンス, モダンダンス, テクニック, 振付, 上演, 指導, ダンス観賞・評価, ダンス伴奏法, 舞踊文化史, 運動の分類, 美学概論, ファーザー・エドケイション, ダンス批評, ナショナル・ダンス, 音楽実技
	ラバンセンター	ダンス・テクニック, コレオグラフィ, ノーテイション, ムーブメント・スタディ, ダンス及び、関連芸術の歴史, ダンス制作, 伴奏法とダンスのための作曲法, 舞踊記録法, 舞踊史, 舞踊社会学, 美学と舞踊批評, 上級ラバン・スタディ, 記録と再現, 舞踊観賞と批評, 地域社会におけるダンス, 特殊教育におけるダンス, ノーテイションからの再現, 作品研究, コンテンポラリー・テクニック, バレエ, 相手との協応, パフォーマンス研究, 日常動作の観察と記録, モチーフ・ライティング, ラバノーテイション, ラバン概念の研究, 動きの観察, 記録ならびに分析, 舞踊分析, 照明と衣裳, 舞踊教育, 即興
ドイツ	ドイツ体育大学 ケルン	リズム/ダンス, 基礎的ダンス教育, 動きの伴奏法, 高度な動きとトレーニング, 段階的指導法, 理論, 指導実習, 指導法, ダンス技術とトレーニング・即興, 創作法, 指導実技, 動作劇, ダンス/動きの技術と即興, エレメンターダンスの基礎, フォークダンス, 子どもの指導実習, Tanz sport
アメリカ	THE GEORGE WASHINGTON UNIVERSITY	Dance Technique, Dance Improvisation, Dance Composition, Dance History, Theater production for Dance, Dance Technique Theory, Choreography, Philosophic Foundation of Dance, Dance Therapy, Ethnic Dance, Dance in Society, Dance Education, Creative dance for Children, Music for Dancer, Movement Technique for Theater, Repertory, Dance Reconstruction, Mime Movement and Theater, Workshop, Dance Movement Analysis, Seminar in Music and Dance, Student Teaching in Dance, Music Fundamentals for Dancers, Any combination of DANCE courses
	University of Massachusetts at Amherst	Modern, Ballet, Jazz, Performing Groups, Creative Dance Studies, Composition, Improvisation, Dance History, Dance Production, Rhythmic Analysis, Scientific Foundations of Dance, Dance Technique, Introduction to Music, Introduction to Theater, Introduction to Art, Criticism, Aesthetics and Research, Accompaniment-Dance, Dance in Education, Dance in the 20 <sup>th</sup> Century
韓国	忠北大学師範大学	リズム体操, 現代舞踊, 学校舞踊
	暁星女子大学師範大学	韓国舞踊, 現代舞踊, Ballet, 教育舞踊論, 美学, 民俗舞踊, 創作実習, 舞踊作品概説, 学校舞踊, 音楽

国名	大学名	科目名
日本	筑波大学	基礎実技舞踊実習, 専門実技舞踊実習, 専門実技舞踊講義, 舞踊方法論, 舞踊方法論演習, 舞踊方法論実習, 基礎実技講義, 運動伴奏法, 運動方法論(舞踊論)特講・演習・実習, 舞踊運動コーチ論特論・演習・実習, ジャズダンス, 比較文化論
	お茶の水女子大学	舞踊原論, 舞踊教育学概論, 舞踊学実習(モダン・バレエ), 舞踊教育学実習, 舞踊学実習(日舞・各種舞踊), 舞踊学特講, 運動美学, 運動学特論, 舞踊教育学実験演習, 舞踊伴奏法, 舞踊教育学特論, 舞踊方法論実験実習, 舞踊教育学演習, 舞踊美学特論, 舞踊方法論特論, 民族舞踊特論, 表現心理学演習, 体育実技(ダンス)
関東地区 教育系大学	a	ダンス実習, 舞踊方法論, 体育教材研究, 初等科体育
	b	表現運動・ダンス, 舞踊学演習, 体育教材特講, 保育体育
	c	フォークダンス及び創作, ダンス, 舞踊概論, 小学校教科の専門(体育)
	d	舞踊, 伴奏法, 舞踊論, 運動方法実習, 運動方法各論, 初等科体育科教育学
	e	ダンス, 初等科体育科教育第一, 心理学特殊講義第二
	f	ダンス, 体育
	g	ダンス, 創作舞踊特習, ダンス伴奏法, リズム運動
	h	ダンス, 体育研究
関西地区 私立大学	大阪体育大学	ダンス, 舞踊演習, 舞踊論, ダンスエクササイズ, コーチング各論
	天理大学	ダンス, ダンス論, ダンス伴奏法, 女子体育論, 音楽
	武庫川女子大学 (体育専攻)	ダンス, 伴奏法, ソルフエージュ
	武庫川女子短大 (体育学科)	ダンス, 伴奏法, ソルフエージュ
	武庫川女子大学 (初等教育専攻)	保健体育実技, 保健体育講義, 体育実技, 体育理論, 教材体育, 音楽リズム
	武庫川女子短大 (教育学科)	保健体育実技, 保健体育講義, 教科体育, 教材体育, 音楽リズム
	十文字学園 女子短大	幼児教育学科 初等教育学科

\*本シンポジウムに関する記録テープはテープの状態が悪く、テープ起こしが不可能なため、パネラーの皆さんに当日ご提出いただいた資料から、「特性と問題点」を掲げ、カリキュラムは膨大な量になるため上の一覧表にまとめました。この表は、ダンスに関する科目について質的な観点で比較することを目的に、司会者と相談の上、次の観点で科目名を抽出し、整理したものです。

- ①科目名に「ダンス・舞踊」という表記があるもの
- ②科目名には、表記されていないが、舞踊に関連する名称と考えられるもの

③科目の概要説明(記載されていない大学もある)に、ダンスに関する内容が示されたもの  
ただし、日本においては、体育系の教員免許状が取得できる大学に限定し、掲載しました。  
(表作成・本山益子)

\*1984年度春季第17回舞踊学会